

# 論壇

## 道具は利用目的が重要

先日、同僚のアメリカ人の教授と話していたら、興味深いことを言っていた。私たちの学部では、最初の2年間に英語教育を徹底して行い、2年の後半以降、経済や政治などの講義は全て英語で行うことになっている。そこで1年生などに厳しい英語のプログラムが課されている。

このアメリカ人の先生も、英文の宿題を出しているという。テーマを決めて、それについて一枚程度の英語のエッセーを書くという宿題のようだ。自由作文に近いものなので、英語力が未熟な学生にとってはなかなか厳しい宿題の

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

ようだ。

ところが、この英作文のリポートの内容が妙にレベルが高いという。ただ、その英語が少し妙な感じがするともいうのだ。ここからはこのアメリカ人の先生の推測にすぎないが、どうも一部の学生は作文をまず日本語で書いて、それをグーグルのソフトを利用して英

## グーグル翻訳が変える生活

語に翻訳しているのではないかと

いうのだ。以前、この欄でもご紹介したように、グーグル翻訳のレベルはそれくらい高いものとなってきた。人工知能の進化のおかげとも言うえる。

もっともこうした翻訳サービスを利用するのは、宿題に苦しむ学生だけではないようだ。学会での

立ち話で聞いたことだが、ある有名な先生は、以前は英語の論文を英語で書き始めていたが、最近はずり日本語で書いて、それをグーグルで英語に翻訳させるそうだ。

その上で、グーグルの翻訳のおかげで、その文章を修正するという。その方が、はるかに負担が少なく、良い英文の論文が書けると言

っていた。

宿題の英作文をグーグルを使って書けばインチキということになるが、自分の英語の論文を書くのにグーグルを使うのは全く問題がないように思える。要するに便利

な道具は、どのような目的で利用するかということだ。刃物を料理に使うのは結構だが、殺傷に

使われれば大問題だ、というのと同じだ。

## 機械にできぬこと磨く

さて、グーグル翻訳の問題が提起しているのは、今後の英語の教育をどうするのかということだ。語学教育が必要なことは間違いないが、子供でもグーグル翻訳を利用できる時代に、海外の人のコミュニケーション能力を高める教育の内容は、これまでとはかなり違ったものとなるはずだ。

情報機器の提供するサービスは徹底的に利用するということを大前提として、その上でどのような教育をすればよいのか。技術進歩のスピードが速いこともあり、早急に教育の変更のあるべき方向を議論していかなくてはならないだ

ろう。

すでにこの欄で何度か述べたように、こうした教育の変化は英語だけに限られるものではない。社会や理科の教育でも、年号や知識の暗記がどこまで必要なのか分からない。スマホやスピーカー型の人工知能装置がたちどころに事実を調べてくれる時代であれば、人間が育むべき知力の内容も変わってくるはずだ。機械を使いこなす能力を磨くとともに、機械にできないことを磨くことが重要となるはずだ。

論より証拠。皆さんも一度ぜひグーグル翻訳を使って英作文や英文翻訳をしてみたい。最先端の技術が私たちの生活をいかに変えるものかを実感できるはずだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。